



2014年6月25日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目1番28号
日本通信株式会社
代表取締役社長 三田 聖二
(コード番号: 9424)
問合せ先 代表取締役副社長 福田 尚久
電話 03-5776-1700

日本通信、インベストメントリスクを一部対応

日本通信株式会社(以下、「当社」という)は、本日開催された定時取締役会での協議を経て、7月1日付入社乾牧夫(いぬい まきお)がチーフ ファイナンシャル オフィサー(以下、「CFO」という)に就任し、同日付で、代表取締役副社長福田尚久はチーフ オペレーティング オフィサーに就任することを決定しましたのでお知らせいたします。

企業分析の大リーグ級プロフェッショナルである乾牧夫は、当社 CFO の役割を福田尚久から引き継いで実現していきます。福田尚久はファイナンシャルの責任を乾牧夫に譲った上で、オペレーションのリーダーシップを徐々に代表取締役社長三田聖二とシェアしていく方針です。これはPL上の業績を株主の皆様の期待以上に成長させていくことを要請されるポジションです。

福田尚久はアップルコンピュータで三田の元で働き、その後、スティーブ ジョブズに直接レポートして同社の業績回復を実行しました。その実績をもって、2002年に再び当社で三田と共に働きはじめ、MVNO事業の発展に寄与しています。

乾牧夫は、上智大学法学部法律学科卒業後、山一証券株式会社に入社。外資系証券会社数社を経て、2004年よりUBS証券株式会社株式調査部マネージング ディレクター、シニアアナリスト、APAC通信株ストラテジストとして、日本のみならずグローバルに通信分野をカバーしてきました。通信業界のメンバーとして三田とは当社創業以前からの付き合いです。

創業者で代表取締役社長の三田聖二は次のように述べています。

「私はこれまで何度も日本通信の最大のリスクはトップマネジメントのキャパシティの限界だと申し上げてきました。今回の人事で、サクセッションプランも意識しながらマネジメントの幅を強化できることを期待しています。」

以上

■日本通信について

1996年5月24日、日本通信は新たなモバイルサービス事業のあり方を提示するため生まれました。それから13年の歳月を経て、2009年3月、NTTドコモとの相互接続により「MSO事業モデル」を完成させました。総

務省の携帯市場のオープン政策のもと、メーカー、流通、ソフトウェア・デベロッパーの皆さまがキャリアに依存することなくビジネス展開ができるよう、パートナー企業の皆さまのビジネス形態に合わせて携帯通信を最適化しご提供しています。ネットワークを効率的に運用する当社独自の先端技術やリアルタイムの認証技術などによって、ユニークな通信サービスをつくりだしております。自社 b-mobile ブランド製品をお客さまに提供する MVNO 事業、及びメーカーやインテグレータ他のパートナー企業に提供する MVNE 事業を展開しています。

MSO=Mobile Service Operator